

令和 7 年 10 月 24 日

保護者の皆様へ

大阪産業大学附属高等学校

校長 平岡 伸一郎

2024年度 アンケート結果のご報告

秋冷の候、保護者の皆様にはますますご清祥のことと存じます。平素は本校教育活動に深いご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。

さて、本校では生徒に「授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケート」「学校生活についてのアンケート」とともに、授業科目ごとの「授業アンケート」を実施しています。2024年度のアンケート結果を踏まえて、その分析と今後の課題を明らかにします。なお、アンケートは、3学期に実施しており、高校3年生は卒業式を迎える直前で登校していないので、1年生・2年生を対象にしています。

1. 「授業アンケート」の結果について

「授業アンケート」の結果は別表の通りです。アンケート結果については、各教科担当の教員に担当クラスごとに結果を戻し、自身の授業内容についての「振り返り」の材料として、次年度の授業内容の改善に役立てるようにしています。

以下、「授業アンケート」への回答結果についての感想です。

「授業アンケート」のいくつかの質問を除いては、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の肯定的な回答が9割を超えており、生徒たちは学校・教師の授業への取り組みを高く評価しているのが伺えます。

また、今回もそうなのですが、この数年の授業アンケートの結果は、特進コースより進学系列のほうが、どの質問に対しても肯定的な回答の数字が高い傾向にあります。その理由として次のようなことが推測されます。

特進コースの多くの生徒は難関大学の合格を目指しており、受験に必要な教科・科目で高得点を取ることが必要であり、教員には試験での高得点に結び付くような授業内容を展開することを期待しています。そういう点で、教員への評価がシビアなものとなっているかもしれません。

コースによるそうした傾向がある中で、今回のアンケートの大きな特徴として、特進コース1年の肯定的な回答が例年に比べ高いことが挙げられます。

下の表1はこの3年間、特進コース1年がアンケートの質問（抜粋）に対して「よくあてはまる」と回答した数字を比較したものです。ご覧のように今回は前回、前々回と比べて10ポイント近く高い数字を示しています。

表 1

質問項目	年度	2022	2023	2024
授業は分かりやすいですか。		60%	59%	67%
授業は工夫されていますか。		59%	58%	69%
授業は参加しやすいものですか。		66%	67%	73%

この教科について興味が深まったと思いますか。	36%	37%	47%
授業を受けて、学力がついたと思いますか。	42%	40%	52%

先ほどの推測からすると、教員が特進コース1年の生徒たちの期待に応える授業を展開できていたこととなります。しかし、理由はそれだけではなく、この学年の授業担当の教員たちにアンケート結果を伝え、その理由を聞くと、性格が素直で、授業に前向きに取り組む生徒が多かったからではないかという答えが返ってきました。良い授業は教員だけがいくら良い取り組みをしても成立するものではなく、生徒も授業に前向きな気持ちで臨むことで成立するものです。教師の働きかけにより、生徒が授業に前向きに取り組む土壌を作り上げていきたいと思います。

また、前回2023年度のアンケートに回答した1年生が1年後、どのような回答をしたのかを示したのが下の表2になります。表中の数字は質問に対して、「よくあてはまる」と回答のあったものです。

表2

質問項目	特 進		進 学	
	2023	2024	2023	2024
	1 年時	2 年時	1 年時	2 年時
授業は分かりやすいですか。	59%	63%	69%	69%
授業は工夫されていますか。	58%	62%	69%	70%
授業は参加しやすいものですか。	67%	65%	75%	72%
この教科について興味が深まったと思いますか。	37%	43%	50%	53%
授業を受けて、学力がついたと思いますか。	42%	45%	54%	56%

特進、進学系列とも前回と同程度もしくは微増となっており、1年経っても生徒たちが本校教員の授業への取り組みに信頼を寄せてくれているのがわかります。われわれ教員も生徒からの信頼に応えるべく、生徒にとってわかりやすく興味が深まる授業を通して生徒の学力向上に努めていきたいと思っています。

2. 「授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケート」の結果について

授業を受ける態度についての Q1 から Q6 のどの質問に対しても、肯定的な回答の数字がほぼ 80%を超えています。なかでも Q4「授業中にノートをとる」では、肯定的な回答が 100%に近い数字となっています。授業ノートは教科担当者からしばしば提出を求められ、評価点に加えられることもあって、他の取り組みよりも高くなっています。ノートをしっかり取るように取り組むことで授業への集中力は高まるので、今後もこの姿勢を継続してもらいたいものです。

Q8「授業に積極的に参加している」に対して、肯定的な回答がほぼ 80%を超えています。先ほどの授業アンケートであげた「授業は参加しやすいものですか」の質問に対する肯定的な回答が高かったことに対応したものとなっています。

以前は「授業は参加しやすい」と答える生徒の多さに比べて、「授業に積極的に参加している」と答える生徒は少なかったのですが、この数年はそのギャップが縮まり、今年もその状態が続いています。今後も生徒が参加しやすい活気ある授業作りに取り組んでいきます。

一方で、Q7「先生からほめられることがある」の質問に対する回答は、他の質問に比べて否定的な回答が高くなっています。今の生徒たちは本校生徒だけでなく、社会全体で見ても自分に自信が持てなく、自己肯定感が低い生徒が多いです。そうした生徒たちにきちんと自信を持ってもらうためにも教師から生徒へ積極的に声かけをしていかなければと思います。

Q9「制服をきちんと着用し、姿勢を正して授業を受けている」に対して、学年・コースの違いがなく肯定的な数字が高く、授業アンケートの「授業のルールを守るように先生は注意していますか」に対応した数字となっています。

学習についての自己評価では、Q10「宿題や課題があればきちんと取り組んでいる」の質問に対し、肯定的な回答が 90%を超えており、自分に課せられた課題はきちんとやるものであるという意識は浸透しているようです。一方、Q12「家庭学習にすすんで取り組んでいる」の回答は学校が期待している数字を満たしていませんでした。課題を出されればするが、そうでなければ積極的にはしないということが浮き彫りになっています。興味がわく授業、理解できる授業があれば、「もっと知りたい」「理解できるからもっとこの教科の成績を上げたい」という気持ちになり、家庭学習に取り組み意欲がわくと思います。生徒たちの知的好奇心をくすぐる授業を展開していくことが必要と思われます。

3. 「学校生活についてのアンケート」の結果について

Q14「この学校の生徒は、挨拶をきちんとしている」の質問に、約 9 割の生徒が肯定的な回答をしています。本校の生徒が挨拶をきちんとする理由として、運動クラブの生徒が礼儀正しく、その他の生徒の良き模範となっているという点と、教員も生徒に自ら積極的に挨拶を行っているので、生徒もそれにならって、という点が考えられます。進学系列の数字が特進より高くなっていますが、進学系列の生徒は部活動への加入率が高く、クラブで挨拶やマナーについて指導される機会が多いことがその理由として考えられます。生徒が挨拶を明るくハキハキとする校風は、自然と生徒を学校生活に対して前向きにさせるようで、Q15「この学校の生徒は、学校生活に積極的に参加している」という質問に対しても約 9 割の生徒が肯定的な回答しています。

Q18 から Q20 までの「校則やルールを守っている」の質問に対しては、肯定的な数字が約 80% となっています。これを見ると生徒たちの中にルールは守らなければいけないという意識はあるようです。しかし、マナーやモラルを守ろうという意識まで高められているかということ、彼らの日頃の行動を見ていると疑問符が付きまします。周りに流されず、自分の価値観・判断力をしっかり磨いていってほしいと思います。

Q21～Q25 は学校・教員の取り組みに対する生徒からの評価となっています。回答で特徴的なのは、Q21「先生は ICT 機器を積極的に活用している」の回答は特進コースで肯定的な数字が高く、Q24「生徒指導にしっかり取り組んでいる」や Q22「学校は、いじめを許さないようにしっかり取り組んでいる」は進学系列で肯定的な数字が高くなっていることです。

特進コースでは各教科とも高校の履修範囲を早く終え、その後大学受験に向けて実戦問題の演習に移行するのを特長としています。そのため教員は学習効率を上げるため、必然的に ICT 機器を活用することが多くなり、Q21 の結果になったと考えられます。

それに対して、進学系列では系列の大阪産業大学との内部推薦制度や他大学の指定校推薦入試制度を利用して大学に進学する生徒が多く、推薦の選考では欠席日数や評定が選考基準の対象となるため、生徒

は日々、規則正しい生活を送ることが必要となり、担任もその点に力を入れて指導します。Q24 や Q22 で進学系列の肯定的な回答の数字が高くなっているのは、それが理由と考えられます。

クラブ活動に対する質問では、進学系列の加入率が高く 1 年では 71%となっています。また、Q27「クラブ活動に積極的に取り組んでいる」に対しては「よくあてはまる」の回答が 1 年 85%、2 年 80%、Q28「クラブ活動と学業を両立させるよう取り組んでいる」に対しても「よくあてはまる」の回答が 1 年 63%、2 年 59%と高い数字となっています。この数字を見ると、進学系列の生徒はクラブ活動に打ち込むことで気力がみなぎり、学業への取り組みや他の活動に好影響を及ぼしているように見受けられます。

以上、各種アンケートの分析結果を簡単に報告させていただきました。分析結果を総括すると、多くの生徒が学校の運営方針、教師の授業内容に信頼を寄せてくれているようです。授業を受ける生徒側の態度についても基本的なルールは守ろうとする姿勢が表れており、そうした姿勢は家庭学習の取り組みにも表れ、宿題や課題はきちんとやるものだという意識を多くの生徒が持っています。また、学校生活についても積極的に前向きに取り組んでくれているようです。実際、本校生徒は素直で明るく、学校生活を楽しそうに送っているように見えます。その様子は教員として安心を感じる一方で、まだまだ本来持っている能力を発揮していないように感じます。その物足りなさを払拭するには、学校・教員サイドの課題として生徒に適切な負荷を与え、生徒の潜在能力を引き出す教育を行う必要性を感じます。